



九谷焼が生まれる現場に出会う

「GEMBAプロジェクト」



200年以上の歴史を持ち、小松の代表的な伝統工芸である「九谷焼」。昨年5月には、九谷焼の複合型文化施設「九谷セラミック・ラボラトリー」(略称：セラボ・クタニ)が開館し、年間1万人を超える来場者が陶芸体験を楽しんでいます。更に多くの人に小松のものづくりに親しんでもらうため、セラボ・クタニオープン1周年を記念し、市内13カ所の九谷焼工房などで、工房見学や体験プログラムを実施します。

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8130

九谷セラミック・ラボラトリー (若杉町ア91)

九谷焼の原料となる磁器土の製造スペースやギャラリーのほか、作陶体験ができるアトリエスペースも併設。作家の作品展示なども行っています。

時 10時～17時(最終入館16時30分)

休 水曜日・年末年始

¥ 一般300円、
高校生以下150円



◆ろくろ成型体験(九谷焼お土産付き) ※所要時間60分
併設の工場で製造した粘土を使い、電動ろくろで成型。

料金 10,000円/人(体験料・送料込み、館内案内付き)

定員 3人

◆色絵加飾体験(九谷焼お土産付き) ※所要時間90分
「九谷五彩」の5色の絵の具で上絵付けを行います。

料金 10,000円/人(体験料・送料込み、館内案内付き)

定員 9人

寿峰窯(宮吉製陶) (吉竹町ツ3-62)

型やろくろで成型する「素地制作」を行う製陶所。食器や花器、骨つばまで多様な形状の九谷焼素地を製造・販売しています。

◆工房見学 ◆染付体験(お皿や湯のみ、飯碗など)



五十吉深香陶窯(八幡己50-1)

素地作り・加飾ともに様々な技法を得意とする工房。「浅蔵カラー」と呼ばれる色彩表現を確立し、素地に模様を彫り込むなど独特の世界観も構築しました。

◆大正初期創業、現代名工の窯元での上絵付け体験



5月1日(金)～予約受付開始

各工房の見学・体験は「GEMBAプロジェクト」公式ウェブサイトから申し込みできます。

GEMBA ゲンバ実行委員会

若杉町ア91番地(九谷セラミック・ラボラトリー内) ☎48・4235 ✉info@gemba-project.jp



その他の参加工房&工場一覧

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| ■陶三窯
(宮創製陶所) | ■打田幸生
■谷口製土所 | ■山中國盛
■宇喜多窯 |
| ■錦山窯(吉田幸央) | ■竹隆窯(北村和義) | ■徳田八十吉陶房 |
| ■陶窯 田村 | ■佐野製陶所 | |

各工房の概要や見学内容・料金などは公式ウェブサイトをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容が一部変更となる場合があります。



SDGs未来都市こまつのまちづくり・ひとづくり vol.8



女性がより活躍できる 社会に向けて、意見を集約 ～SDGs未来都市こまつ一日Mayor～

問い合わせ 広報秘書課 ☎24・8016 はつらつ協働課 ☎24・8397

市では、持続可能なまちづくりを市民共創で進めるため、各分野のリーダーなどを「SDGs未来都市こまつ一日Mayor(市長)」に委嘱し、様々なテーマについて、市職員と意見交換を行っています。第2回目は「女性活躍と社会進出」をテーマに、男女ともに働きやすい職場や子育て支援などについて意見を交わしました(2月19日開催)。

Mayor'sメッセージ

一日Mayorを務めた二人からのメッセージを紹介します。これらの意見を市の施策に反映させ、よりやさしいまちに向けて取り組んでいきます。



▲委嘱状を受け取った北川真奈美さん(左から2番目)と数馬瞳さん(左から3番目)

多様性を尊重し、 誰もが個性を発揮できる社会へ

やさしい職場づくりにおいて、重要視したい2つの視点があります。1つ目は「あってはならない違いをなくす」という視点です。性別が違うだけで待遇が違うことは見直し、頑張っている人を認め、女性の意見も通しやすい職場環境づくりが大切であると思います。2つ目は「なくてはならない違いは守る」という視点です。出産や育児、家庭の事情などに配慮した、柔軟な働き方が選択できるようになっていくことを期待します。

また、一人ひとりが輝く社会のため、企業だけでなく、社会全体の考え方を変えるための更なる啓発活動や体制づくりを進めてほしいと思います。

一日Mayor 北川 真奈美

コマニー株式会社
経営企画本部サステナビリティ経営推進室長

子育てしやすい社会に向けた 施策展開を

仕事と育児の両立に悩む人がアドバイスを求められる場所の充実や、市内にある様々な施設を家族で楽しみながら学べる機会や連携した企画がもっと増えることを期待します。また、子供たちが身体を使って生き生きと過ごせる野外のパークに屋内施設も併設させて、家族みんなで出掛けたいような総合的なパークも理想です。

さらに、子供や障がい者、高齢者など多様な人が集い、自然と子育てについての会話が生まれる場があり、そこから市民の意識や暮らし方も変わっていく、そんな日々の生活の土台になるような場ができることを願っています。

一日Mayor 数馬 瞳

Favo南加賀版編集長
なかうみバンザイ プロジェクトメンバー